

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275500631		
法人名	有限会社ワイ・エイチ企画		
事業所名	グループホームサンシティはいばら		
所在地	牧之原市仁田563-1		
自己評価作成日	令和3年2月10日	評価結果市町村受理日	令和3年5月11日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が安心して生活が送れる環境を提供出来るよう支援・介護を心掛けています。施設の周辺には山や川や田んぼなど豊かな自然に囲まれた環境にあり利用者様と一緒に散歩に出掛け近所の方と挨拶を交わしたり、季節を感じたり交流を深めています。今はコロナの影響で出来てはいませんが、毎年11月には施設で秋祭りを開催し、地域の方にも参加していただいたり、地元のお祭りに利用者様が参加し交流を深めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyvoCd=2275500631-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyvoCd=2275500631-00&ServiceCd=320&Type=search)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3年 3月 25日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、法人本部と連携を図りながら、地域住民や職員の協力のもと、理念の実践に努めている。コロナ禍の現在、感染症防止に特に注意を払い、居住空間の換気・清潔保持に努めている。事業所の厨房から手作りの食事が提供され、職員は利用者とともに食事を摂りながら味や好みを聴き取り、食事レクや献立作りに役立っている。コロナ禍により、地域住民との交流は制限されているが、散歩時の挨拶や町内会の回覧板を回覧するなど、地域とのつながりを大切にしている。休止中のデイサービスの場所の活用方法として、住民の避難所としての利用を提案し、今後対応を検討していく。管理者とユニットリーダーは、毎月、利用者の写真とコメントを添えた便りを作り、利用者の様子を家族へ伝えている。現在訪問面会は中止しているが、電話連絡や窓越し・オンライン面会による関係の継続を図っている。運営推進会議は書面で開催し、資料を送って意見や要望の聴き取り、運営に反映させている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員の目の届く場所に提示し、共有できるようにしている。理念に近づける様に職員が努めている	事業所理念を掲示し、職員は常に確認することができる。管理者は、ユニットリーダーと連携しながら、朝・夕の申し送りや月例のミーティング会議を活用し、職員との情報共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今はコロナの影響で出来ないが地元のお祭りや行事に職員も参加し、利用者様と散歩に出掛けた際には地元の方と挨拶を交わすなどし交流を深めている	コロナ禍により、行事参加や地域住民との交流機会は制限されているが、散歩時の挨拶や、町内会の回覧板で事業所の行事案内を回覧するなど、地域とのつながりを大切にしている。事業所主催「秋祭り」には、地域住民や家族に参加してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今はコロナの影響でご家族や地域の方々には市出席してもらえていないが2か月に1度開催している運営推進会議には民生委員や町内会長にも参加していただき理解を深めて頂かよう努めている	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加していただいた際に地域の方々やご家族様の意見を伺い向上に努めている	運営推進会議は、コロナ禍により書面開催ではあるが、2か月に1回、資料を送付して事業所の様子を報告し、意見を伺っている。平常時には、市福祉課と地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、家族代表の参加があり、意見や提案を事業所運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者には日ごろから連絡を取るようにし、事業所の実情は運営推進会議議事録などの書類を届けた際に報告も行っている	コロナ禍の中、書面開催している運営推進会議の議事録や資料は、できる限り持参し、直接意見を聴くように心掛けている。休止したデイサービスの場所の活用方法として、避難所としての利用を提案し、今後連携しながら対応を検討していく。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を宣言しており、利用者様の立場に立ち安心して介護が受けれるような環境の整備に努めている	指針・マニュアルを整備し、身体拘束適正化委員会を3か月に1回、職員研修は月例会議時に行い、本社職員の看護師と連携しながら、身体拘束をしないケアに努めている。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを職員が閲覧出来る場所に置き虐待防止に関する知識を得られるようにするとともに身体拘束防止の勉強会も行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用した事はないが制度については管理者が職員に説明する機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項など改正があった際には十分に説明を行い利用者様やご家族様に同意をいただき疑問点などを聞くようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けたりご家族が面会に来られた際には利用者様の状況を報告すると共に意見や要望を聞けるように関係性作りに努めている	管理者とユニットリーダーは、毎月、利用者の写真とコメント担当職員が一言添えた便りを作り、様子を伝えている。運営推進会議開催時には、事業所への意見や要望を聴き取りながら、参加の有無を確認していた。現在はコロナ禍のため、面会は中止しているため、電話連絡を心掛けている。	コロナ禍により面会を中止していることから、この機会に事業所からの「家族アンケート」実施など、家族からの意見や要望の積極的な吸い上げの仕組みについて検討することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・ミーティングにて日々の会話の中で気軽に意見や提案が言えるような関係性が作れるように努めている職員個々の意見や提案を反映出来る様に努めている	管理者は、朝夕の申し送りや職員会議を活用し、職員と情報を共有している。課題が見られた場合は、ユニットリーダーと連携しながら都度注意するとともに、日頃の会話を重視し、職員個々の意見や提案の聴き取りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や処遇改善交付金により手当を出すことで職員が向上心を持って働ける環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設で出来る研修を外部に依頼し他研修や講習などの情報も職員に提示している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市内の介護施設の会議に参加し情報の交換をし質の向上に繋げている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談の段階で本人の生活歴や要望・思いを聞いたり探ったりし安心安全出来るサービスを提供に努め、入居後は更に利用者様との関係性を築いていく中で思いや要望の変更があれば速やかに対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接の段階でご家族様が困っている事や不安な思いを聞くことで安心していただけるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や情報で必要な支援である事を見極めサービスを利用していただく。必要であれば他のサービスについても説明を行っていく		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭での生活を念頭に利用者様の暮らしを考え職員が利用者様の立場だったらという思いで時には家族になった気持ちで接していけるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の思い要望ご家族様と職員が共通理解をし、同一歩調で本人の支援をしていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今はコロナで面会は制限しているが電話で話をしていたり、窓越しで会話をいただけるように支援している	家族との外出や花見、お墓参りなどの外出を、積極的に支援している。コロナ禍の現在、面会・外出は制限しているが、オンラインや窓越し面会など、家族の要望に合わせた支援を心掛けている。事業所で馴染みとなったボランティアの受入れ再開についても、関係の継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで一緒にお茶を飲んだり塗り絵やカラオケなど一緒に楽しむように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には今後の動向を伺い気になっている事などの有無を確認し出来る事があれば協力している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様が思いや希望を伝える事が出来るよう関わりを持っていけるよう努め会話の中から聞き出せた事をケアプランに反映させ支援している	利用者・家族の意向や希望は、入居予定者の面接記録や、入居時の「フェイスシート」に丁寧に聴き取り、職員は情報を共有している。日々の会話の中から思いや意向の聴き取りに注力し、介護計画作成へ結び付けるように心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報をいただいたり日々の生活の中で本人やご家より傾聴し新たな情報等があれば必要に応じ記録し職員が共有出来る様にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は出勤したらまず利用者様に挨拶をし、いつもと違っていたら変化に気づけるように心掛けている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成したアセスメントシートで職員と話し合い意見を求めケアプラン作成に反映させている	「申し送りノート」や「日報」に日々の様子を記載するとともに、「経過観察」の記録はタブレットを活用して、職員の情報共有を図っている。「評価表(モニタリング実践記表)」にて3か月ごとのモニタリングを行い、看護師・家族の意見を取り入れながら、介護計画作成に反映させている。	日々の支援は、各記録紙に細かく記録しているが、タブレット導入を機に、介護計画表の「長期目標」「短期目標」を明記し、目標を確認しながら支援・記録ができ、変化がある時は、職員からの気づきが記入できる欄のある記録作成の検討を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護サービス内容で1日の利用者様の行動や発言などを記入しケアプランの見直しに活かしている		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態の変化にご家族様の思いを考慮しサービスの多機能化に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りに参加。地域の方々にはサンシティでのお祭りに参加していただくなど地域との交流を深めていた		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	相談・受診できる病院があり週に1度訪問看護も利用しているので看護師に指示を仰ぎ受診に繋げている	入居前からのかかりつけ医療機関や他科通院の際には、家族と相談の上、職員が付き添い支援をしている。週1回看護師が訪問し、利用者の体調を管理し、管理者・職員と情報を共有している。緊急時には、24Hオンコールで看護師と連絡を取ることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度利用している訪問看護師に状態を報告し指示を仰ぎ受診や介護に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は利用者様の情報を看護師に提供し安心して入院生活を送れるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居に重度化した際の施設の方針説明を行い、終末期には訪問看護と医師と看取りの計画を話し合うようになっている	重度化した際の事業所の対応について、指針・マニュアルを整備し、入居時に利用者・家族に説明して同意を得ている。終末期には、主治医と看護師から家族へ再度説明し、往診対応に変更するなど、家族の意向に沿った対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習は何人かの職員が受講しているが緊急時の実践力は職員全員がまだ身に付けてはいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行い避難誘導の訓練を行っている。	年2回、消防署との連携のもと、火災想定での避難訓練を実施している。災害備蓄品は、3日間を目途に、ローリングストックにて管理している。災害発生時の近隣住民の避難として、休止しているデイサービス施設利用を、市担当者と検討している。	休止中のデイサービス事業所の空きスペースの利用方法について、市担当者との検討を勧め、地域住民の避難所として設備が整備され、地域住民に認知されることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の話を否定せず肯定的に聞き入れる。本人の人格や習慣を受け入れ言葉かけには尊重を心掛けている	指針を整え、利用者・家族に入居時に説明するとともに、スピーチロック等の研修を定期的に行い、職員は利用者の尊厳に配慮した対応を心掛けている。課題が散見される場合は、管理者は都度注意するとともに、ミーティングで職員との共有を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えや要望に耳を傾け本人が満足出来るような対応をするよう心掛けているいくつかの選択肢を提供する事で自己決定がスムーズに出来るよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様個々のペースを大切にする。出来るだけ日課に沿って生活出来るよう支援していく		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度散髪を支援している。服装は職員が決定するのではなく利用者様が選択出来るよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が出来る事は手伝っていただき、普段の会話の中で利用者様が食べたいものを聞き献立に活かしている	食事は専門スタッフの手作りで提供しており、職員と一緒に食事しながら、食事の味や利用者の嗜好について聴き取り、献立作りに繋げている。誕生会やひな祭りなど食イベントを毎月行い、食事を楽しむ工夫を心掛けている。事業所主催の秋祭りでは、家族や住民にも提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は毎日記録している。水分が苦手な方には寒天など取りやすいよう支援している		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1度訪問歯科を利用している。歯科医の指示を仰ぎ支援に繋げている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況は記録している。尿意便意のある方は見守りを重視し、トイレが間に合わない方には声掛けを行っている	排泄状況を記録し、利用者個々の排泄パターンを把握し、経過記録や様子を観ながら、声掛けとトイレ誘導を心掛けている。夜間は、安全面からセンサーマットを利用して、転倒防止に気配りしながら、夜間もトイレ利用を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録とともに担当医師・訪問看護師に相談し、水分を多く摂って頂けるよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回程度ある。入浴の希望時間には添えられていない	入浴は週2回、夜間入浴は避けて、午前浴を基本としているが、ゆったりと入浴してもらうことを心掛け、利用者の体調・気分配慮しながら、柔軟に対応している。季節を感じる入浴剤を使うなど、入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣である希望に応じてベッド・布団で寝られるように支援している。居室で自由に横になり休んで頂けるようシーツの洗濯まどを行い環境づくりに努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書等で薬の種類や効用・服用の仕方、注意事項を理解するようにしている。服薬時には氏名日付を確認し飲み込みの確認まで行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活歴を把握し力を活かせる機会を提供出来るよう努めている		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴など声掛けを行い、拒否される利用者様には無理強いせず、出来る範囲で支援している。	コロナ禍で外出機会が制限されているが、事業所周辺は景色の良い環境で、散歩や外気浴を楽しむことができる。散歩や洗濯干しなど、日々の暮らしの中で利用者の希望に沿った外出や外気浴ができるように、工夫をしながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本職員が管理している。買い物と一緒にいける利用者様にはお金を渡し自分で使えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話を掛けたりご家族様や知人からの電話や手紙が届いたりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心安全な環境の提供を第一に考えソファの位置や座席の配置に考慮している。季節にあった壁画や花を活けている	周辺の豊かな自然は、窓から季節の変化を眺めることができるが、室内でも季節を感じられるように生け花を飾っている。感染症対策として、空気清浄機を設置し、朝・夕清掃と換気・消毒を行い、清潔な環境作りを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室では1人でゆっくり過ごせるよう支援している。ソファや椅子で雑談できるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人の使い慣れた家具やテレビ衣類寝具などを持ってきて頂けるようにしている	ベッドと大きなクローゼットのある居室は、テレビ・ラジオ・使い慣れた家具を持ち込み、利用者好みの部屋作りを支援している。利用者の状態の変化に合わせて、安全面を配慮して家具の移動など模様替えをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に応じシルバーカーや歩行器具を使用したり車椅子で移動できるよう道筋を作ったり自立で移動できるよう支援している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275500631		
法人名	有限会社ワイ・エイチ企画		
事業所名	グループホームサンシティはいばら		
所在地	牧之原市仁田563-1		
自己評価作成日	令和3年2月10日	評価結果市町村受理日	令和3年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2275500631-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2275500631-00&ServiceCd=320&Type=search)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3年 3月 25日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が安心して生活が送れる環境を提供出来るよう支援・介護を心掛けています。施設の周辺には山や川や田んぼなど豊かな自然に囲まれた環境にあり利用者様と一緒に散歩に出掛け近所の方と挨拶を交わしたり、季節を感じたり交流を深めています。今はコロナの影響で出来てはいませんが、毎年11月には施設で秋祭りを開催し、地域の方にもさんかしていただいたり、地元のお祭りに利用者様が参加し交流を深めています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員の目の届く場所に提示し、共有できるようにしている。理念に近づける様に職員が努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今はコロナの影響で出来ていないが地元のお祭りや行事に職員も参加し、利用者様と散歩に出掛けた際には地元の方と挨拶を交わすなどし交流を深めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今はコロナの影響でご家族や地域の方々には市出席してもらえていないが2か月に1度開催している運営推進会議には民生委員や町内会長にも参加していただき理解を深めて頂かせるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加していただいた際に地域の方々やご家族様の意見を伺い向上に努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者には日ごろから連絡を取るようにし、事業所の実情は運営推進会議議事録などの書類を届けた際に報告も行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0を宣言しており、利用者様の立場に立ち安心して介護が受けれるような環境の整備に努めている		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを職員が閲覧出来る場所に置き虐待防止に関する知識を得られるようにするとともに身体拘束防止の勉強会も行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用した事はないが制度については管理者が職員に説明する機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項など改正があった際には十分に説明を行い利用者様やご家族様に同意をいただき疑問点などを聞くようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けたりご家族が面会に来られた際には利用者様の状況を報告すると共に意見や要望を聞けるように関係性作りに努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・ミーティングにて日々の会話の中で気軽に意見や提案が言えるような関係性が作れるように努めている職員個々の意見や提案を反映出来る様に努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や処遇改善交付金により手当を出すことで職員が向上心を持って働ける環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設で出来る研修を外部に依頼し他研修や講習などの情報も職員に提示している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市内の介護施設の会議に参加し情報の交換をし質の向上に繋げている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談の段階で本人の生活歴や要望・思いを聞いたり探ったりし安心安全出来るサービスを提供に努め、入居後は更に利用者様との関係性を築いていく中で思いや要望の変更があれば速やかに対応している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接の段階でご家族様が困っている事や不安な思いを聞くことで安心していただけるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や情報で必要な支援である事を見極めサービスを利用していただく。必要であれば他のサービスについても説明を行っていく		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭での生活を念頭に利用者様の暮らしを考え職員が利用者様の立場だったらという思いで時には家族になった気持ちで接していけるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の思い要望ご家族様と職員が共通理解をし、同一歩調で本人の支援をしていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今はコロナで面会は制限しているが電話で話をさせていただいたり、窓越しで会話をさせていただけるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで一緒にお茶を飲んだり塗り絵やカラオケなど一緒に楽しむように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には今後の動向を伺い気になっている事などの有無を確認し出来る事があれば協力している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様が思いや希望を伝える事が出来るよう関わりを持っていけるよう努め会話の中から聞き出せた事をケアプランに反映させ支援している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に情報をいただいたり日々の生活の中で本人やご家族より傾聴し新たな情報等があれば必要に応じ記録し職員が共有出来る様にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は出勤したらまず利用者様に挨拶をし、いつもと違っていたら変化に気づけるように心掛けている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成したアセスメントシートで職員と話し合い意見を求めケアプラン作成に反映させている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護サービス内容で1日の利用者様の行動や発言などを記入しケアプランの見直しに活かしている		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態の変化にご家族様の思いを考慮しサービスの多機能化に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りに参加。地域の方々にはサンシティでのお祭りに参加していただくなどし地域との交流を深めていた		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	相談・受診できる病院があり週に1度訪問看護も利用しているので看護師に指示を仰ぎ受診に繋げている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度利用している訪問看護師に状態を報告し指示を仰ぎ受診や介護に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は利用者様の情報を看護師に提供し安心して入院生活を送れるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居に重度化した際の施設の方針説明を行い終末期には訪問看護と医師と看取りの計画を話し合うようになっている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習は何人かの職員が受講しているが緊急時の実践力は職員全員がまだ身に付けてはいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行い避難誘導の訓練を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の話を否定せず肯定的に聞き入れる。本人の人格や習慣を受け入れ言葉かけには尊重を心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えや要望に耳を傾け本人が満足出来るような対応をするよう心掛けているいくつかの選択肢を提供する事で自己決定がスムーズに出来るよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様個々のペースを大切にする。出来るだけ日課に沿って生活出来るよう支援していく		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度散髪を支援している。服装は職員が決定するのではなく利用者様が選択出来るよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が出来る事は手伝っていただき、普段の会話の中で利用者様が食べたいものを聞き献立に活かしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は毎日記録している。水分が苦手な方には寒天など取りやすいよう支援している		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1度訪問歯科を利用している。歯科医の指示を仰ぎ支援に繋げている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況は記録している。尿意便意のある方は見守りを重視し、トイレが間に合わない方には声掛けを行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録とともに担当医師・訪問看護師に相談し、水分を多く摂って頂けるよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回程度ある。入浴の希望時間には添えられない		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣である希望に応じてベッド・布団で寝られるように支援している。居室で自由に横になり休んで頂けるようシーツの洗濯まどを行い環境づくりに努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書等で薬の種類や効用・服用の仕方、注意事項を理解するようにしている。服薬時には氏名日付を確認し飲み込みの確認まで行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活歴を把握し力を活かせる機会を提供出来るよう努めている		

静岡県( )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴など声掛けを行い、拒否される利用者様には無理強いせず、出来る範囲で支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本職員が管理している。買い物と一緒にいける利用者様にはお金を渡し自分で使えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話を掛けたりご家族様や知人からの電話や手紙が届いたりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心安全な環境の提供を第一に考えソファの位置や座席の配置に考慮している。季節にあった壁画や花を活けている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室では1人でゆっくり過ごせるよう支援している。ソファや椅子で雑談できるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人の使い慣れた家具やテレビ衣類寝具などを持ってきて頂けるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に応じシルバーカーや歩行器具を使用したり車椅子で移動できるよう道筋を作ったり自立で移動できるよう支援している		